教育関連記事

エデュサン edu sun

9

2025 / No.119

生活科移動教室でコネティカット州ノーウォークのマリタイム水族館を見学、
エイやクラゲ、チョウザメなどに触れた。「エイの体ってプルプルしているね！」
（photo: ニューヨーク日本人学校）

発行／ DAILYSUN NEW YORK LLC　1270 Avenue of the Americas, 7th Floor, New York, NY 10020
TEL：646-327-6443　WEB：www.dailysunny.com　E-MAIL：info@dailysunny.com

edu sun INDEX

1. 教育レポート

◆修学旅行で学びと視野広げる　NY 日本人学校

◆「奇跡の星空～ここが今日からのわが家！」　NY 育英学園サタデースクール NJ 校

◆ボストン修学旅行でアメリカの歴史に触れる　NY 日本人学校

◆「生き物と仲良し」スタンフォード自然博物館で校外学習　NY 日本人学校

◆ボストンとプリマスで移動教室を実施　NY 育英学園インターナショナルスクール

2. NY 教育関連ニュース

◆ NY で「加工肉」が禁止に！学校と病院で提供ストップ、2026 年夏から

◆「正解を求める教育」が子どもを弱くする？ 親ができる 5 つの工夫

◆ユネスコが「デジタル学習週間 2025」を開催　AI 教育から “ 人間中心 ” へ国際合意

◆ NY 州の高校で進む「ティーン・メンタルヘルス・ファーストエイド」研修

◆性自認に応じた “ トイレ利用 ” 巡り NY で議論、市長発言に反発の声

◆アメリカの教育現場で「AI 利用」が急増　教師の半数がすでに活用 | 1 番人気は？

エデュサン
edu sun

1. 教育レポート

EDUCATION REPORT

修学旅行で学びと視野広げる

NY 日本人学校　2025.09.19

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッチ、森本恵作校長）の 7、8 年生 22 人は 8 月 26 日から 29 日、フィラデルフィア、ワシントン D.C.、ボルチモアを訪れる 3 泊 4 日の修学旅行に参加した。アメリカ社会への理解を深め国際的な視野を広げること、歴史や文化に触れる体験を通じて学習を深化させること、集団生活を通して責任と協力の態度を養うことが目的。

初日はフィラデルフィアのフランクリン科学博物館を訪れ、館内のテーマ別展示を見学しながら課題に取り組んだ。巨大な心臓模型の中に入り、心臓の働きを学んだ。続いてアメリカ革命博物館を見学。独立戦争に関する資料や映像と、授業で学んだ内容を結び付け、当時の社会や人々の考えを知ることができた。

2 日目はワシントン D.C. でホワイトハウスやナショナルモールを訪問。ワシントンモニュメントでは石材の色の違いに着目する生徒もおり、展望台からの街並みに感嘆の声が上がった。午後は学年ごとに分かれ、7 年生は国会議事堂で英語ガイドによる説明を熱心に聞き、その雰囲気を体感した。8 年生はスパイミュージアムで体験型展示に参加し、スパイ活動を模擬体験した。夜のリンカーン記念堂では、刻まれた英語の文章を読み合いながら意味を考え、互いに意見を交換する姿も見られた。広場を行き来しながら景観の美しさに感激する生徒もいた。

3 日目はアーリントン国立墓地で献花を行い、世代や人種を超えて祈りが捧げられる場の意味を考える機会とした。国立公文書館では独立宣言や合衆国憲法の原本を見学し、建国の理念を改めて確認した。午後は 7 年生が自然史博物館と航空宇宙博物館を巡り、8 年生は事前の計画に基づき班ごとに自主行動をした。仲間と声をかけ合い、時間を守りながら主体的に学習を深める姿が印象的だった。

最終日はボルチモアでボルチモア博物艦船群を見学した。潜水艦や戦艦、コーストガードの船内を歩き、魚雷に触れたり艦長のキャビンで指揮官の生活を学んだりした。複雑な機械や構造を間近に見ることで、未知の分野への関心を広げることができた。

4 日間を通じ生徒たちは、修学旅行実行委員を中心に自主自律の行動を心がけ、協力しながら活動した。責任感を持ち積極的に取り組む姿勢は頼もしく、歴史や社会を自らの目で確かめた今回の修学旅行は、大きな学びと成長の機会となったようだ。

生徒たちは今回の経験を劇にして、10 月 11 の学校祭で発表する予定だ。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）

ワシントンモニュメント。首都の象徴を
バックに思い出を刻んだ

ボルチモア博物艦船群では平和の尊さを学んだ

「奇跡の星空～ここが今日からのわが家！」

NY 育英学園サタデースクール NJ 校　2025.09.26

ニューヨーク育英学園サタデースクール・ニュージャージー校（半場綾子ディレクター）は 8 月 30 日と 31 日、毎年恒例の宿泊校外学習を実施した。夏の爽やかな風が吹き抜ける中、出発式を終えた子どもたちはバスに乗り込み、期待と少しの不安を胸に、およそ 1 時間の移動を経てキャンプ場へと向かった。

「もう着いた？」「あと何分？」と バスの中からすでに待ちきれない様子の子どもたち。到着したキャンプ場は、青空と緑に囲まれた自然豊かな場所で、「ここが今日からのわが家！」とばかりに大はしゃぎする声が広がった。

キャビンに荷物を置き、昼食を食べた後は、待ちに待ったアクティビティータイム。ジップラインでは風を切りながら森の中を滑り抜け、アーチェリーでは的に集中。いちばん人気は、すべり台とバスケットゴールが付いたリゾート仕様のプールだった。

「先生、見てて！」水しぶきとともに歓声が響く中、泳力テストにも挑戦、全員が見事合格した。

夕方からは夕食作り。メニューは今年も子どもたちの熱いリクエストに応えて、カツカレー。特別メニューとして、1 学期に理科の授業で育てたジャガイモを使ったじゃがバターも登場した。男子たちは火起こしを担当し、女子たちは野菜の皮をむき、切りそろえ、手際良くカレーが出来上がった。

「自分で作るとこんなにおいしいんだね」「家でも作りたい！」
みんな、何度もおかわりをして満腹に。

夜は焚き火を囲んでのスモア作りと星空観察。空を見上げると、雲一つない奇跡的な夜空が広がり、「夏の大三角」やいくつもの流れ星が子どもたちを迎えてくれた。

「あ、流れ星！」「この星空、作文に書きたいなぁ」子どもたちの瞳は、星の輝きに負けないほどきらきらと輝いていた。

遊び尽くした一日。キャビンに戻ると、布団に入った子どもたちは、あっという間に夢の中へ。笑顔と達成感に包まれた、静かな夜が過ぎていった。

翌朝は予定よりもずいぶん早く、男子数人が午前3時過ぎから起床。エネルギーは前日以上で、楽しくて仕方がない様子。朝のラジオ体操の後は朝食とお弁当作り。前日の経験を活かして、驚くほどスムーズに作業が進んだ。

最後のアクティビティーは、ラフティング体験。快晴の下、声をそろえてオールを動かし、「もっと早く進むには？」「タイミング合わせよう！」と、まるで一つのチームのように協力しながら川を下っていった。水の流れが緩やかな場所では思いきり川に入り、「気持ちいい！」と天然の流れるプールに大はしゃぎ。濡れてしまった服も笑いに変え、まるで自然と一体になるかのような時間が流れた。

1 泊 2 日の短い間だったが、子どもたちは多くのことを感じ、学び、経験した。自分の力で何かを成し遂げたという達成感。仲間との絆。自然の中での発見。いつもとは違う環境だからこそ育まれた思いやりや責任感。この 2 日間で得た経験は、子どもたち一人一人の心に深く刻まれ、これからの学びや生活に生かされていくだろう。（情報・写真提供：ニューヨーク育英学園サタデースクール・ニュージャージー校）

キャビンに到着。これからの体験にワクワク

澄み切った空気の中でラジオ体操

ボストン修学旅行でアメリカの歴史に触れる

NY 日本人学校　2025.09.30

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッチ、森本恵作校長）の 5、6 年生は 9 月 10 ～ 12 日、2 泊 3 日の修学旅行を実施、ボストンを訪れた。スローガンは「一味同心～ All one with 20 hearts ～」。仲間と心を一つにしながら、歴史と文化、英語の学びを深める貴重な機会となった。

1 日目はプリマスプランテーションやメイフラワー号を訪れ、アメリカ建国の歴史について学んだ。2 日目は現地ガイドから、アメリカ独立において、先人たちがどのように行動したのかを聞き、史跡を巡った。フェンウェイパークでは、球場にまつわるさまざまエピソードを知ることができた。 3 日目はハーバード大学を学生ガイドの案内で巡り、大学の歴史や建築について学んだ。その後、科学博物館では体験型展示で科学の面白さに触れ、生き物の観察も楽しんだ。

どの場所でも子どもたちは学ぶ意欲を見せ、出会った多くの人々に温かく迎えられた。夜はホテルでレクリエーションを楽しみ、学年を越えた絆を一層深める時間となった。

子どもたちは修学旅行を通して、アメリカの歴史や文化を学ぶとともに、ボストンの魅力を発見し、公共の場でのマナーや協力の大切さを体験しながら身に付けた。

子どもたちの「一味同心」の心は、今後の学校生活や行事でも発揮されていくだろう。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）

フリーダムトレイルを歩き、
マサチューセッツ州議事堂を訪れた

ボストン茶会事件博物館では、
独立戦争への道を学んだ

プリマスプランテーションでは、17 世紀
の清教徒たちの生活を体験

ボストン・レッドソックスの本拠地、フェンウェイ
パークで。座席もチームカラーの赤

「生き物と仲良し」スタンフォード自然博物館で校外学習

NY 日本人学校　　2025.09.30

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッチ、森本恵作校長）初等部１年生は９月 16 日、校外学習でスタンフォード自然博物館を訪れた。

この日のテーマは「いきものとなかよし」。３つの活動で学びを深めた。

１番目は、動物探し。実際に目にする動物は図鑑や写真で見ていた印象とは異なり「思ったより大きい！」と驚く子どもも。

２番目は、動物観察。自ら選んだ動物をじっくりと観察し，体の特徴や動きに注目した。分からないことをその場で英語でスタッフに質問する子どももいて、異文化の中で自ら学び取ろうとする姿勢が頼もしかった。観察活動を通して子どもたちは、学習の基本姿勢である「よく見る」「気付く」を実体験として習得した。

３番目は､動物との触れ合い。施設スタッフによる動物との触れ合いショーでは､普段は触れる機会の少ない動物にズームイン。解説を聞きながら実際に動物を間近に観察することで、生き物の特徴や生態について学ことができた。

校外学習で、教室の中だけでは得られない貴重な体験をした子どもたち。生活科の今後の学習へとつながる学びとなった。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）

いきものをかんさつしたよ

えさやりって、おもしろいね

はじめていきものをさわりました

がっこうにかえって、まなびのしめくくりをしました

ボストンとプリマスで移動教室を実施

NY 育英学園インターナショナルスクール　2025.09.30

ニューヨーク育英学園インターナショナルスクール小学部の 5、6 年生は 9 月 16 ～ 19 日、マサチューセッツ州ボストンとプリマスで移動教室を実施した。

初日はまず、バスレクリエーション係によるゲームで片道 4 時間半の道のりを楽しんだ。バスの中は終始、子どもたちの笑い声で満ちていた。17 世紀の清教徒の生活を再現したプリマスプランテーションでは、グループに分かれて見学。当時の姿に扮したスタッフにインタビューをしたり、当時の様子を再現した住居の見学では 17 世紀の生活について理解を深めた。その後、イギリスから清教徒を乗せてアメリカにやって来たメイフラワー号にも乗船した。

2 日目は、最新鋭のロボットを開発するボストン・ダイナミクスを訪問した。犬型のロボット「スポット」が、工事現場や工場などでどのように活躍をしているのか、それを可能にするためにどのような機能があるのか、実際に動く様子を見学しながら説明を聞いた。普段は入れない研究施設の内まで見学させてもらい、子どもたちは多くの刺激を受けていた。

ロボット開発に興味がなかった子どもたちも、説明を聞くうちに興味が湧いたようで、見学後には「ボストン・ダイナミクスがいちばん楽しかった」「将来はロボット開発の仕事に携わりたい！」といった感想を口にする子どもたちも少なくなかった。スポットを操縦した際の喜びや高揚感は、何事にも代えがたい貴重な経験となったようだ。

3 日目は、ジョン万次郎ゆかりの地、フェアヘブンを訪れた。19 世紀のアメリカで懸命に学問に励んだ万次郎。万次郎が学んだという小さな小学校を訪れた子どもたちはその逞しい生き方に感銘を受けた様子だった。

最終日は、ピルグリムファーザーズが使っていた粉ひき水車、プリマス・グリスト・ミルを見学し、穀物を粉にする水車の動力の仕組みを学んだ。17 世紀の様子を想像しながら、先人の知恵や工夫に感心しきりだった。

今回の移動教室では、自由を求めアメリカに渡って来た清教徒たちの思いやアメリカ人のル ーツとなるアメリカ先住民族の暮らし、また、激動の江戸時代末期に日本とアメリカの架け橋となったジョン万次郎の軌跡を学ぶことで、日本とアメリカの２つの文化の中で育つ自身と重ね合わせ、将来への活力と勇気を大いにもらう旅となった。（情報･写真提供：ニューヨーク育英学園インターナショナルスクール）

ボストン・ダイナミクスでは最先端の
ロボット開発の現場を見学

プリマス港に係留されたメイフラワー 2 世号

edu sun

2. NY 教育関連ニュース

NEW YORK EDUCATION NEWS

子どもから大人まで人気のフライドチキン、調理済みの揚げ物も規制対象となる。写真はイメージ（photo: Unsplash / logan jeffrey）

NY で「加工肉」が禁止に！

学校と病院で提供ストップ、2026 年夏から

2025.09.12

ニューヨーク市は 2026 年 7 月 1 日から、公立学校や市立病院などで提供される食事に新基準を導入し、加工肉を全面禁止するとともに、人工着色料や低カロリー甘味料、特定の添加物、保存料の使用を厳しく制限する。健康情報サイトのヘルスビートが 8 月 29 日、伝えた。

2008 年に初めて制定された市の食品基準は、数年ごとの見直しが義務付けられている。今回の改定は既存の規制をさらに強化したもので、慢性疾患や食生活に起因する病気が市民の主要な死因であり、とりわけ黒人住民に深刻な影響を及ぼしていることが背景にある。

新基準では、学校給食や病院食、高齢者向け宅配食など 11 の市機関が年間に提供する約 2 億 1900 万食の食事やスナックを対象に、人工着色料、低カロリー甘味料、特定添加物・保存料の規制を強化する。加工肉類を禁止し、チキンナゲット、モッツァレラスティック、テイタートッツ（ポテト加工品）など、あらかじめ揚げて調理された食品についても推奨しない方針だ。代わりに、可能な限り全粒食品や最小限の加工食品、地元産食材を使用し、最初から調理した食事を推奨する。

市民の平均寿命の向上を目指す市保健局（DOH）の取り組み「HealthyNYC」の一環として市は 30 年までに心疾患や糖尿病関連の死亡率を 5% 減少させ、がんによる死亡率を 20% 減らすことを目標に掲げている。

分断する社会、AI の急速な進化など、子どもを取り巻く環境は不確実性に満ちている。写真はイメージ（photo: Unsplash / Pamela Buenrostro）

「正解を求める教育」が子どもを弱くする？

親ができる 5 つの工夫

2025.09.08

正解を求める教育には、思わぬ落とし穴がある。現実の人生はテストのように答えが一つに決まっているわけでなく、むしろ不確実さの連続だ。15 年以上にわたりビジネススクールで成功者の思考を研究してきた専門家が、不確実性を受け入れ前進する力を養うため、できるだけ早いうちから子どもに教えるべき秘訣を紹介している。CNBC が 1 日、伝えた。

子どもに不確実性を受け入れさせるには、保護者が手本を示すべきだ。保護者ができる 5 つのサポートは次の通り。

1. 迷いを否定しない

答えがすぐに出せなくても、2 つの異なった考えが浮かんでも問題ないと伝える。何かを理解しようと努力したときは褒めてあげよう。

2. 答えだけでなく、アイデアを生み出す手助けをする

保護者が介入し解決してしまうのではなく、試せそうなことや起こり得る結果などを問いかけ、子どもが試行錯誤しながら自分で答えを見つける手助けをする。

3. 迷いと意思決定のモデルを示す

自分の思考プロセスを子どもとシェアする。自ら学ぶ姿勢を示し、パニックではなく好奇心を持って取り組む姿を見せる。

4. 年齢を問わず遊びの時間を確保する

音楽、視覚芸術、演劇などの活動は、安全な環境で自己表現し、選択の結果を学ぶ場を提供する。

5. 生活習慣を整える

睡眠、食事、運動、人間関係が安定していれば、不安定な状況でも冷静に考えやすい。

写真はイメージ（photo: Pexels / Tara Winstead）

ユネスコが「デジタル学習週間 2025」を開催

AI 教育から“人間中心”へ国際合意

2025.09.30

ユネスコは 8 日、パリで「デジタル学習週間 2025」を開催。AI（人工知能）が教育に与える影響を巡り、各国の教育関係者や専門家が集まり未来の学びのあり方について議論を交わした。ユネスコ教育担当のステファニア・ジャンニーニ氏は「AI は教育に混乱をもたらしている。だからこそ、人間中心で倫理的な原則に基づいた決断が必要だ」と強調した。

会議では、AI が「教師を支える存在となるのか、置き換えとなるのか」「学力を高めるのか、逆に低下させるのか」といった二項対立的な議論を超え、より複雑で現実的な課題にどう向き合うかが焦点となった。各国の教育大臣による協議では、① AI 格差への対応 ②学習者の安全と倫理の確保 ③教師という不可欠な存在の保護 ④地域や文化を反映する AI の推進 ⑤国際的な連帯と共通基準づくりの 5 つが緊急課題として共有された。

会期中は 300 人以上の登壇者による 40 を超えるセッションが行われ、カリキュラムや教育評価の変化、AI 活用の課題について多様な視点から議論が広がった。またユネスコは、21 人の専門家による論考を収録した「AI と教育の未来」や、学習者の権利保護をテーマにした新刊を発表。さらに高等教育機関における AI 活用に関する調査では 9 割が仕事で AI を利用する一方、基礎理解や教育応用に自信を持つ人は半数にとどまるなど、課題が浮き彫りになった。

ユネスコでは 2024 年以降、58 カ国で AI 教育カリキュラムや教員研修の整備を支援しており、「生成 AI の教育利用ガイドライン」も作成。ジャンニーニ氏は閉会にあたり、「AI を全ての人の尊厳と平等のために活用する世界的な対話の場を築いていく」と述べ、国際的な連帯の重要性を呼びかけた。

写真はイメージ（photo: Unsplash / Melissa Askew）

NY 州の高校で進む「ティーン・メンタルヘルス・ファーストエイド」研修

2025.09.24

■高校で仲間同士がメンタルヘルスを支えあう取り組み

ニューヨーク州各地の高校で、学生が同世代の仲間を精神的な危機から支える方法を学ぶ「ティーン・メンタルヘルス・ファーストエイド」の研修が広がっている。これは、全米で増加する 10 代の不安や抑うつ、自殺の傾向に対応する取り組みだ。米疾病予防管理センター（CDC）は、2023 年にはアメリカの高校生の 40% 以上が持続的な悲しみや絶望感を抱え、5 人に 1 人が真剣に自殺を考えたことがあると報告している。公衆衛生に関するニュースサイト、ヘルスビートが 22 日、伝えた。

■自身の健康に加え、仲間を支えるスキルを身に付ける

この研修は、ニューヨーク州のホークル知事が進める若者のメンタルヘルス戦略の一環。自身の健康に加えて仲間を支えるスキルを身に付け、必要に応じて専門家につなぐ力を養うことを目的としている。プログラムは全米メンタルヘルス協議会によって設計され、15 ～ 18 歳を対象に「警告サインの見極め」「いじめや暴力の影響理解」「友人との対話方法」「信頼できる大人への相談手順」などを学ぶ。

■ NY 州は 2000 万ドルを投入

今年初め、ホークル知事はこの取り組みの拡充に向け 2000 万ドルを公立学校の早期介入プログラムに投じると発表した。そのうち 1000 万ドルを今後 5 年間の高校生や大人約 2500 人の研修費用に充て、州内に年間約 200 人の新しい指導者を養成する計画。ニューヨーク州メンタルヘルス協会も助成を受け、現場の高校での実施を担っている。

続きはウェブへ

写真はイメージ（photo: Unsplash / Danielle-Claude Bélanger)

性自認に応じた“トイレ利用”巡り NY で議論

市長発言に反発の声「男子生徒が女子生徒のシャワー室に…」 2025.09.30

ニューヨーク市のエリック・アダムス市長が、トランスジェンダーの生徒が自認する性別に応じてトイレを利用できる現行の方針に異議を唱え、議論を呼んでいる。ニューヨークポストが 25 日、伝えた。

■教育局の規定では性自認に応じることが「必須」

アダムス市長は記者団に対し「男子生徒が女子生徒のシャワー室に入ることを認めるのは安全ではない」と強調し、近く方針を見直す可能性を示唆。一方、市教育局（DOE）のメリッサ・アビレス＝ラモス局長はポッドキャスト番組で「（性自認に応じた）方針は今後も維持する。ニューヨーク市公立学校の価値観の一部である」と述べ、変更する意向がないことを明言した。

DOE の規定では、生徒は自認する性別に基づき学校のトイレや更衣室などの施設を利用することが「必須」とされている。アビレス＝ラモス氏は、同規定が州法に準拠していると説明しているが、市長は「市長として変更できる権限があるかどうか検討している」と述べている。

■トランスジェンダー包括政策に反対するトランプ政権

方針見直しの背景には、連邦教育省が市のトランスジェンダー包摂政策を「他の生徒の権利侵害にあたる可能性がある」と警告し、数百万ドル規模の教育資金の凍結をちらつかせたことにある。トランプ氏に忖度するアダムズ氏だが、市当局は「トランプ政権が気に入らない政策を変えさせるために、子どもの教育資金を人質にしている」と強く反発。

市庁舎は、アダムス市長と DOE の間に意見の相違はあるものの「行政は単一の意見で成り立つものではなく、議論はむしろ強みだ」と説明。最終的には「法律を順守しつつ、生徒の安全と尊厳を守る」との点で両者は一致していると強調した。DOE の広報担当者も「全ての生徒が安全で尊重され、安心できる場を提供し続ける」とコメントしている。

写真はイメージ（photo: Unsplash / Aerps.com)

アメリカの教育現場で「AI 利用」が急増

教師の半数がすでに活用 | 1 番人気は？

2025.09.30

アメリカの公立学校における数学・理科教育で、生成 AI（GenAI）の利用が急速に広がっていることが新たに全米規模で実施された調査で分かった。調査は、ワシントン大学や RAND 社などの研究チームによって今年春に実施。1000 人余りの教師が回答した。

■半数の教師が授業で GenAI を使用

調査によれば、回答した教師の半数が授業で GenAI を使用しており、そのうち 22% は週に一度以上利用していると答えた。利用目的の中心は授業準備（76%）、生徒用テスト作成（62%）で、採点業務の自動化は 13% にとどまった。教材の質を高める点で有効とする声がある一方で、生徒が不正利用する懸念も指摘。教師の意見は「学習効果にプラス」が 30%、「影響なし」が 36%、「マイナス」が 34%と、評価は分かれた。

■教師の研修が急務

さらに調査では、教師の研修不足が深刻であることも浮き彫りになった。「地区から正式な研修を受けた」と答えたのは 22%、「明確なガイドラインがある」と答えたのはわずか 5% だった。全体の 75% が「基礎的な使い方から学びたい」と回答し、授業計画や学習評価に活かすための体系的な研修を求めていた。

■授業改善のための支援と研修が重要

最も多く使われているツールは ChatGPT で、GenAI 利用教師の 88% が利用経験を報告。しかし教育向けに特化したツールは限られており、政策面での整備も遅れている。調査報告は「AI を効率化の手段にとどめず、授業改善につなげるには制度的支援と研修が不可欠」と結論付けている。

MORINAGA®
Product of Japan

ゼリー飲料で
エネルギーチャージ！

HI-CHEW メーカーの
おいしいフルーツ味

お買い求めはお近くの日系マーケット、またはオンラインストアにて

DAISO　DAINOBU　Mitsuwa MARKETPLACE

CHARGEL.COM　AMAZON.COM

supported by

edu sun